

Q1 ASDの人たちにとって、「社会に出る際の航海術をもたない」という話の詳細を知りたいです。

A1 梅永先生からの回答です。

「航海術をもたない」という意味は、何をどのようにしたらよいのかわからないといった「見通しが持てない」という実行機能の弱さのことです。

よって、我々が航海術（生きていく術、すなわちライフスキル）を支援していかなければならないという意味です。

なお、パワーポイントの資料については、プレゼンのためあえて外している部分もあるため、当日にお渡しした資料でご理解いただければと思います。

---

Q2 WISC-IVの場合、5才のときの数値から小学校入学後に変化することがよくあり、病院では2年おきにとることを勧めています。WAISの場合、16才からとることになりますがWISCのような低年齢からの数値の変化のようなものがあるのでしょうか。

A2 倉本先生からの回答です。

成人でも一般に、年齢に応じて知的能力が変化することが知られています。

特徴は、

- ・言語性検査より動作性検査において年齢による低下が顕著である。
- ・結晶性知能は流動性知能に比べて保持されやすい。
- ・群指数で見ると、言語理解、作動記憶、知覚統合、処理速度の順に保持される傾向がある。

言語理解は50歳近くまで得点が上昇し、その後低下は見られるが、他の群指数に比べて緩やかで、高いレベルが保持される。知覚統合、処理速度は若い年代から直線的に低下しており、中でも処理速度が最も低下する。作動記憶は25～60歳近くまで安定し、変化がみられないが、それ以降は曲線的で急激な低下が目立っている。

引用文献では変化がグラフで示されています。ご参考にして下さい。

・引用文献：山中克夫、「認知機能の加齢変化と高齢者への知能検査の適用」、老年精神医学雑誌 第22巻第10号、p1117-1124, 2011

Q 3 T T A Pの経験、知識がない支援員がT T A Pを取得するにはどれくらいの期間がかかりますか。

A 3 ふれんから回答いたします。

米国ノースカロライナT E A C C H部では、研修を受けた方が検査をするのをお薦めしています。研修を受けた方からサポートを受けながら実施するのは可能です。

複数の方にT T A Pを実施することで、知識と理解が深まり運用が進んでいくと思います。まず始めるところからスタートしてみませんか。ふれんも相談いただけましたらお手伝い致します。

---

Q 4 通所施設に通っている利用者さんは、就労の経験がないせいか、一般就労したいという人があまり居ません。一般就労の経験や実習などの経験をさせてあげたいのですが、ご協力してもらえますか。

A 4 ふれんから回答いたします。

一般就労を目指す前の準備として、実習や施設内での作業や検査、インタビューを通して、一般就労の可能性をみていく方法があります。また、T T A Pを含めたアセスメントも情報を整理し、目標立てをする際に有用です。ふれんも相談いただければお手伝いいたします。

---

Q 5 アルバイト先との就労支援について、保護者だけだと難しい場合があります。サポートを受けたい時、障害者手帳がなければ支援は受けられないのでしょうか。

A 5 ふれんから回答いたします。

手帳がなくても、支援・サービスを受けられる場合があります。そのお一人お一人の状況によって、使えるサービスが異なるので連絡をもらえるとありがたいです。